

# 白藍塾オリジナル

## 2020入試小論文分析&解答のヒント

2020年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

### ● 慶応・法学部

課題文は書かれたのが1983年とやや古く、時代の感じられる文体なので、読みにくさを感じるかもしれない。簡単にまとめると、次のようになる。

「アジアにとって、近代以降に接触した西欧世界は、普遍性を持つ優越者として映った。そのため、アジアは自分たちを遅れているとみなす西欧の見方を受け入れ、西欧をモデルとして物質的のみならず精神的にも変革を強いられた。ところが、そうした急速な近代化は伝統的な社会の仕組みを崩し、アジア人としてのアイデンティティーの崩壊につながり、社会の不安定化を招く結果となった。一方で、アジア各国では近代化が必ずしも一様に進まず、各国の文化のあり方によって独自の進み方をしている。このように、アジアの近代化は決して一様なものではなく、独自で多様なものだ」と認識したうえで、アジア諸国の共存を図ることが、今後は重要だ」

課題文の要約の部分は、以上のような内容を400字程度にまとめればよい。

ちなみに、課題文の説明が今一つピンと来なければ、近代以降の日本の歩みを考えてみるとよい。黒船によって欧米世界と出会い、欧米に追い付き追い越せと言いつつ近代化を急激に進めた。その一方で伝統的な価値観や社会規範が崩壊し、それを補うために民族主義・排外主義に傾くと同時に外へ外へと際限なく拡張を進め、やがてそれがアジア・太平洋戦争へとつながっていった。

また、最後の部分は、中国や韓国、インド、ASEANなどが経済的にも台頭し、それぞれ国際社会での重要性を増してきている現状を考えると、わかりやすい。1983年と言えば、アジアでは日本が一人勝ちをしていた時期だが、むしろ現在においてこそ、筆者の提言はリアリティーを持つとも言えるだろう。

では、何を書くべきか。課題文の最後の部分を踏まえて、「これからはアジア諸国の多様性を重視しつつ共存を図るべきか」を問題提起するのが正攻法だろう。

ただし、これにノーで答えるのは難しい。イエスで答えて、「西欧的・近代的な価値観は、環境破壊などの深刻な問題を引き起こし、今や限界を迎えている。西欧をモデルにするのをやめ、アジアの多様性を尊重しつつ、東洋的な価値観を取り戻すべきだ」「日本は他のアジア諸国に先んじて高度な発展を遂げたために、未だにアジアを軽んじているところがある。アジア諸国が台頭してきた今こそ、アジア

の多様性を尊重しつつ、アジア諸国と対話をして共に発展をめざすべきだ」などと論じるとよい。

あえてノーで答えるとすれば、中国の一方独裁や人権抑圧などを取り上げ、アジアの多様性が必ずしも国際社会の共有する民主的な価値観になじまないこと、むしろ人権などの価値観をまずは共有することが、今後のアジアの発展にとって重要であることなどを論じるとよいだろう。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://www.hakuranjuku.co.jp>